



厚真市街地で街頭啓発する参加者

厚真市街地で冬の交通安全運動

冬の交通安全運動（11月13日～22日）にちなんだ町交通安全推進委員会主催の街頭啓発「セーフティーコールあつま」が11月11日、厚真市街地で行われました。

町内の事業所や団体、厚真高校生など85人が、歩行者の安全確保やスリップ事故と全席シートベルトの着用、飲酒運転の根絶をドライバーに呼びかけました。

厚真町社会福祉協議会（大橋正治会長）の主催で「平成30年北海道胆振東部地震災害支援感謝のつどい」が11月12日、総合福祉センターで開かれ、ボランティアや町民が久しぶりに再会して支援への感謝を伝えました。

町民吹奏楽団と厚真中学校吹奏楽部の合同演奏で開幕し、厚真郷芸保存会の和太鼓演奏などが披露されました。

また、震災後から町内で復興に向けた活動を続けている「あつまっぷる」代表の高橋康夫さん、「オフィスあつぷろード」代表の上道和恵さん、「つむぎ」代表の村上朋子さんが、これまでの取り組みや今後の抱負を語りました。

胆振東部地震の災害支援に感謝伝える



合同演奏で感謝を伝える出演者たち

町が認知症徘徊検索模擬訓練



行方不明者を見つける職員

町は11月22日、ソフトバンク（株）がスマートフォン用に提供する認知症高齢者の見守り支援サービスを使った認知症徘徊検索模擬訓練を実施しました。

「オレンジセーフティネット」と呼ばれるアプリで、事前登録した検索協力者が、スマートフォンの地図を使って検索者の目撃情報などを入力し、情報を共有します。

訓練には、検索協力者役の12人が参加。提供された行方不明者の写真を基に、2人1組で市街地を探しました。終了後、参加者から発見時の行方不明者への声の掛け方や検索を終えたエリアが分かるように表示して欲しいといった意見が寄せられました。

苫小牧信用金庫が企業版ふるさと納税で町に1000万円を寄付

苫小牧信用金庫は11月25日、企業版ふるさとと納税制度を活用して新庁舎建て替え事業に活用してもらおうと1000万円の寄付目録を町に贈呈しました。

目録の贈呈は町長室で行われ、同信用金庫の小林一夫理事長が宮坂町長に手渡しました。小林理事長は「庁舎の建て替えプロジェクトがあると聞きました。町のシンボルとなる新庁舎の建設にあたり地域貢献したいと思い、寄付させていただくことにしました」と説明。宮坂町長は「多額の寄付に町民も喜んでおり、感謝申し上げます。後世に評価されるような庁舎にしたい」とお礼を述べました。



目録を贈呈した小林理事長